～もっと地域と　もっと地域へ～

かがやくえがお

第25号

令和８年１０月１５日
長崎市立小島小学校
校　長　　桐山　充晴

【学校教育目標】夢をもち、ふるさとを愛し、自ら未来を切り拓く児童の育成

６年生　小体会終わる



昨日（１４日）、各学校の6年生が参加する「長崎市小学校体育大会」が開催されました。それほど暑さを感じない見事な秋晴れの中、実施することができました。



今年は、フットホッケー、プレルボール、フラッグフットボールへの出場でした。前日に全校で行った「小体会出場選手を励ます会」では、「練習の成果を信じ、全力で挑んでほしい」「勝ち負け以上に、〈最後まであきらめない強い心〉〈互いを応援し合う協働の心〉〈ルールを守るマナー〉を大切にしてほしい」そして、「最高に輝く1日」になるようにと伝えました。また、５年生を中心とした全校児童からの力強い応援にパワーをもらい、本番では、それぞれが全力を出し切って戦いました。結果は下のとおりで、思うような結果ではなかったのかもしれません。競い合うものですから、順位がつきます。「結果は実力やそのときの運で左右されます。結果に目を向けるのは当日だけにして、それまでの経過（過程）を考え、そして経験値として身に付けることにより、人生が豊かになる。」と考えています。



小体会に向けて一致団結し、一丸となって一つの目標に向けて頑張ってきたことは、今後の学校生活を送る上で大きな糧となるでしょう。今後の６年生の更なる成長を期待したいと思います。

このような6年生の姿は「あこがれの存在」となります。もちろん小体会への取組に限らず、下級生の世話、委員会、クラブ活動、縦割り活動などで、随所に最高学年としての自覚をもった行動「最高学年らしさ」を見せてくれています。このような「あこがれの存在」は、子供の心を動かします。あこがれる側は、あこがれの存在を目指して頑張ろうとします。また、あこがれられる側も、よりよい姿を見せようと頑張り、自然と高め合うことができます。まさしく「子供が子供を育む」姿です。

今後も、6年生に限らず、学校教育という異年齢集団の中（家庭における兄弟姉妹でも同じ効果はあります。）で、縦のつながりをもつことで、このような姿を通して、やり通す心と体を育てていきたいと思います。



最後に、各会場で、多くの保護者の方が早朝から応援に駆け付け、熱い御声援を送っていただきました。ありがとうございました。

【小体会結果】

これで、また一つ6年生が参加する行事が終わりました。行事のたびに、たくましく成長していく6年生を見る嬉しさと同時に、「最後の」行事を終える6年生の姿に寂しさも感じています。

フットホッケー：2敗
（対福田小：19-55　対桜町小：20-36）
プレルボール：2敗
（対日見小：8-14　対桜が丘小：5-19）
フラッグフットボール：優勝
（対伊良林小：44-32　対小榊小B：44-20）







